

(1) 司法書士受験のきっかけ・動機

会社に勤めるのではなく、自分で仕事をしなかったから。何か手に職をつけたかったから。法学部に通っており、友人が司法書士会に履歴書を預けることが出来、募集があれば事務所から問い合わせがあると教えてくれ、採用してくれたのが司法書士事務所だったから。

(2) 学習時の環境

学習開始当時は司法書士事務所（大阪）に勤務しながら勉強をしていた。不合格が続いたことと、その他の事情によって、最後の2年間は、司法書士事務所を退職して、地元（徳島）で受験勉強に専念していた。

(3) 独学ではなく受験指導校を利用することに決めた理由

合格者が必ずどこかの受験指導校に通っていたこと。試験を突破するための知識が膨大であるが、合格に必要な知識を整理してくれていると思ったから。また受験指導校では法改正などに対応してくれると思ってから。

(4) 数ある受験指導校からWセミナーを選んだ決め手

大阪にいた時に、TACで講座を受講していたこと。地元で大手受験指導校がTAC徳島校しかなかったこと。受講するのなら、通信やWEBではなく、自習室の利用が出来ることが条件であったから。

(5) 私の学習スタイル、学習スケジュール

勉強をしない日を作らないようにして、勉強をしないことに違和感を感じるように、机に向かって勉強をすることを習慣にするように意識していました。集中力が切れた時は、短時間でも休憩するようにしていました。択一式・記述式を問わず、どうしても間違えてしまうところは、ノートに自分なりまとめて書くようにして、ちょっとした時間に見るようにしていました。あと、その日の課題を切りのいいところで終わらないように、あえて一部残すようにするか、課題+αにしていました。答練・模試・講義などの予定を軸にして、それ以外の時間に復習の時間、択一の時間を割り振っていました。あとは、本試験の時間配分と同じように、午前中は午前の問題、午後は午後の問題を解くようにしていました。

(6) 科目別勉強法、学習時に重視したポイント、記述式対策

【民法】

問題の割合が最も大きいですが、民法が一番苦手でしたので、一番時間を割くようにしていました。どの分野が苦手なのかを絞り込んで、そこを集中して問題を解くようにしていました。

【会社法・商法】

条文がとにかく長いので、原則の部分を覚えるようにしました。似た制度が多いので、自分なりに似た制度の比較をノートにまとめました。

【不動産登記法（択一）】

総則部分の理解を深めるように総則部分の条文をしっかりと読みました。

各論部分は、民法の物権部分の学習の際に、関連付けて覚えるようにしていました。

【不動産登記法（記述）】

各権利の設定の登記が基本になるので、設定、保存の書式例を覚えるようにしました。

あとは、登記原因ごとに共通点があるので、まとめて覚えました。

【商業登記法（択一）】

会社法と関連付けて覚えました。

総則部分は不動産登記法と似ているので、比較しながら覚えました。

【商業登記法（記述）】

どの添付書類が、必要になるかをまとめました。

【憲法】

条文と過去問を中心に勉強をしました。

あとは、行政書士試験で使用したテキスト・過去問もサブとして使用しました。

【刑法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

【民事訴訟法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

【民事保全法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

【民事執行法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

【供託法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

【司法書士法】

過去問と模試を中心に勉強しました。

(7) 受験時代の苦勞・困難・失敗談と、それを乗り越えた方法

モチベーションを維持すること、勉強を継続して続けることが大変でした。

模試の結果が悪かったときや過去問演習などで何度も同じ問題を間違えたりしたときは、問題集などを開くのが嫌になりましたが、そんな時は近くに法務局があったため、合格して司法書士として仕事をしに来ることイメージするようにして、モチベーションを上げるようにしていました。

(8) WセミナーがNo.1 だと思う部分とその理由

豊富なカリキュラムがあり、自分の状況に応じて受講する講座を選べるところが良いと思います。また、Web フォローは繰り返し視聴できますし、音声DLフォローを利用すると講義の音声をダウンロード出来るので、それにより隙間時間を活用できました。

(9) Wセミナーを受講して良かった点 (講師)

姫野講師の解説講義における詳細な過去問の分析や出題予想、記述の解法など、他の受験指導校にはない細やかな指導が良いと思います。

山本講師の講義は、法律の講義を聞いているような重苦しい感じではなく、ずっと頭に入ってきて分かりやすかったです。

(10) Wセミナーを受講して良かった点 (教材)

教材の内容は、試験を突破するうえで過不足なく、ちょうど良かったです。

法改正の際には、改正後のテキストの交付があるなど、すぐに対応してもらえた点も良かったです。

(11) Wセミナーを受講して良かった点 (カリキュラム)

直前期には集中して、自分で勉強できるように組まれていたので、カリキュラムをスケジュールの中心にして、勉強をすることが出来ました。

(12) フォロー制度の活用方法や良かった点

主に Web フォローを利用しましたが、1 回聞いたところで理解できないところを繰り返し見ることができたのが良かったです。ネット環境さえあれば、スマートフォンでも見ることができて、場所を選ばずに見えることも良かったです。

(13) 各種答練・模試の活用方法や良かった点

模試・答練を利用して、1 問にかかる時間を計り、体に時間の感覚が染みつくように意識していました。解説講義において、姫野講師が各問題の本試験における出題可能性を言ってくれていたのも、復習の際には可能性の高いところを重点的に復習するようにしていました。

(14) 勉強以外の部分

仲間や友達を作ることが目的で受講していた訳はなかったので、できるだけ他の講座の受講生の人達と話をしないようにしていました。同じ司法書士の講座の受講生の人とは、分からないところをお互いに質問し合うようにしていました。

(15) これから勉強を始める方へのアドバイス

覚える量も多いので、全てを暗記することはできません。理解することが大事だと思います。特に条文・判例を学習する時には、具体例を思い浮かべたり、絵を描いてみたりして、文字だけではなくイメージをしながら、勉強をすると理解が深まると思います。

途中で何回も心が折れそうになりますが、そんな時は司法書士を目指そうとした理由を思い出すなどして、モチベーションを上げましょう。